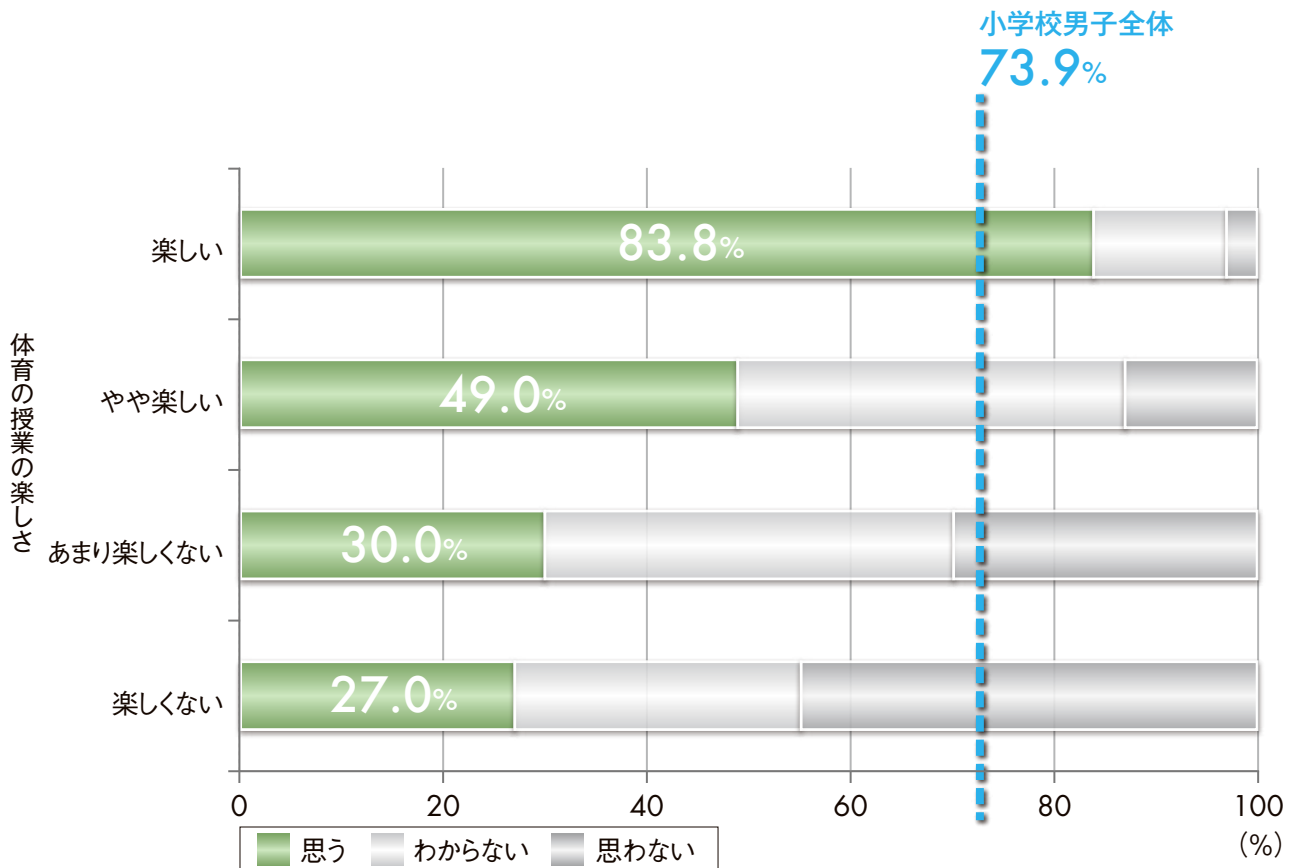


■ 体育の授業の楽しさと

卒業後も運動やスポーツをしようとする意欲 (小学校男子)

卒業後も自主的に運動やスポーツをしようと思う割合は、小学校5年生男子全体で、73.9%であった。体育の授業に肯定的な意識をもつほど、その割合が高く、特に「授業が楽しい」と回答した群は83.8%と、他の群の平均を大きく上回った。

小学校女子、中学校男女でも同様の傾向がみられた。



卒業後、授業以外でも自主的に運動やスポーツをしたいと思う割合

体育の授業の楽しさ

体育の授業の楽しさ	有効回答数
楽しい	385,664
やや楽しい	105,741
あまり楽しくない	18,498
楽しくない	7,540

小学校5年生男子で、体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した群別に、卒業後に授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思うか(「思う」「わからない」「思わない)への回答状況を比較した(→p.65 図5-3)。

体力総合評価の高い児童生徒は、卒業後も自主的に運動やスポーツをしたいと思う割合が高かった。また、家の人から運動やスポーツを積極的に行うようにすすめられる環境にあたり、授業以外でも運動やスポーツを行っていたりする児

童生徒も同様の傾向にあった。

さらに、体育・保健体育の授業において、楽しさと運動の技能を身に付けることは密接にかかわっている。授業が楽しいと感じている児童生徒ほど、体力・運動能力が高く、卒業後も運動やスポーツをしようとする

意欲が高かった。

事例では、朝や昼休みなど授業以外の時間を使って運動の習慣化を図ったり、運動会など体育的行事を保護者・地域参加型にしたりすることで、運動意欲を高めることを目指す学校の取組を紹介する。

| テーマ |

5

生涯にわたって 運動やスポーツを しようとする意欲

小・中学校における体育的な活動は、現在の児童生徒の体力の向上のみならず、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育むことを目指すものである。

児童生徒は、卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいという意欲をどれだけもっているか、また、どのような児童生徒にその意欲が高いのだろうか。卒業後も運動やスポーツをしようとする意欲を高め、さらには生涯にわたり運動やスポーツに親しむ資質や能力を育成するために、どのような働きかけが有効かという観点から、分析結果をみた。

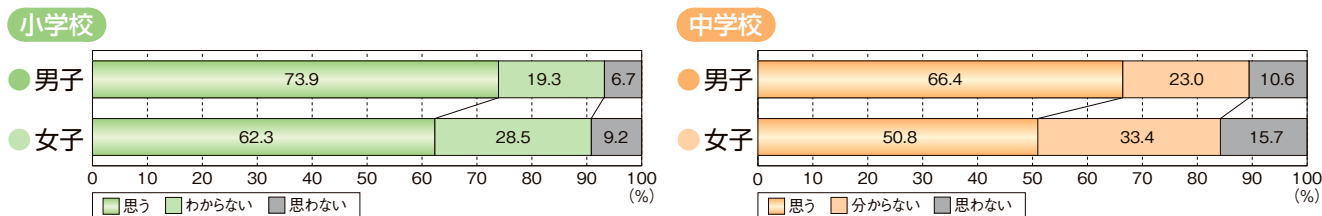
卒業後も自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒

体育・保健体育の学習指導要領には「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」(小学校)、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」(中学校)という目標が掲げられている。したがって、小・中学校での体育的な活動の成果は、その後の運動やスポーツをする意欲を高めることにつながっていることが望ましい。

卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合は、小学校の男子で73.9%、女子で62.3%、中学校の男子で66.4%、女子で50.8%であり、小・中学校ともに男子が女子よりも、その割合が高かった(図5-1)。また校種では、小学校よりも中学校でその割合が低い。以上から、男子よりも女子、小学校よりも中学校において、運動やス

ポーツをする意欲を高めていく取組が特に求められる。そして、小学校から中学校、中学校から高等学校へと、環境が変化する際にいかに運動やスポーツをする意欲を維持させるかが重要であることがわかる。その意味で、小学校・中学校の連携を深めていくことが望まれる。

[図5-1] 卒業後の運動やスポーツへの意欲(児童④・生徒③)



授業以外での多様な運動経験と卒業後の運動やスポーツへの意欲

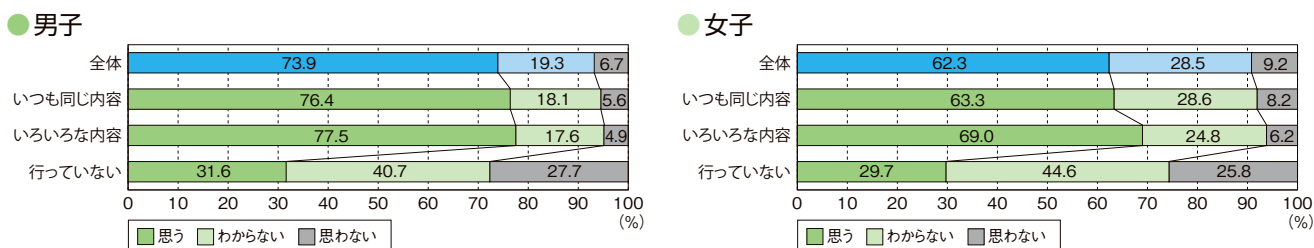
「授業以外の時間にどのように運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツを行っていますか」の回答別に、卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童の割合を比較した結果、授業以外の時間に運動やスポーツを「行っている」と回答した児童が、「行っていない」と回答し

た児童よりもその割合が高いことがわかった(図5-2)。そして若干ではあるが、いつも同じ内容よりも、いろいろな内容の運動やスポーツを行っている方が、その割合が高い傾向にあった。テーマ1でも、小学校入学前にいろいろな内容の体を動かす遊びを行っていた児童は、現在の体力合計点が高く、1週間の総運動時間が長いことが示された(→p.8 図1-2,1-3)。

したがって、学校や地域が連携し、体を動かす遊びを含む多様な運動が経験できる環境を整えることは、児童生徒が生涯を通して体を動かす習慣を身に付けることにつながると考えられる。

多様な運動の経験

[図5-2] 授業以外での運動やスポーツの状況と卒業後の運動やスポーツへの意欲との関連(児童②⑥×④)



運動の得意・苦手、体育の授業の楽しさと卒業後の運動やスポーツへの意欲

体育・保健体育の授業において運動やスポーツが得意だと思ふことや、できなかったことができるようになることは、授業の楽しさと密接にかかわっていることが、平成25年度調査（平成25年度報告書p.38-39, p.74-75）やテーマ2で示された。一方、「体育／保健体育の授業は楽しいです

か」の回答別に、卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合を比較した結果、楽しさを感じている児童生徒ほどその割合が高いことがわかった。「楽しい」と回答した児童生徒では、70～85%程度であった（図5-3）。

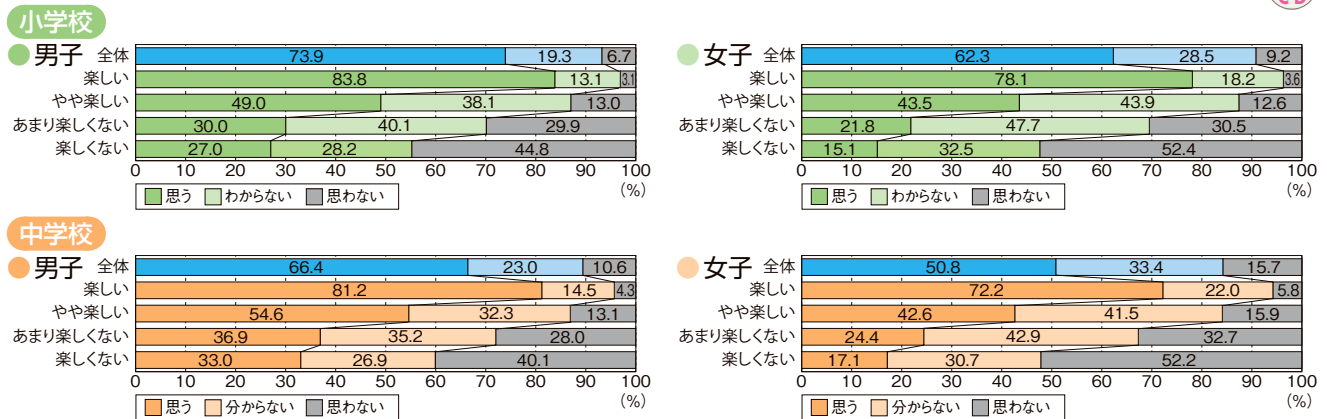
授業に楽しさを感じて意欲的に取り組むことで、運動技能を高めるだけでなく、その後の児童生徒の運動やスポーツをする意欲を高めること

につながる可能性がある。

したがって、児童生徒が体育・保健体育の授業を楽しみと感じる、児童生徒が体育・保健体育の授業に没頭できる工夫が期待される。

授業の楽しさ

【図5-3】 体育（保健体育）授業の楽しさと卒業後の運動やスポーツへの意欲との関連（児童12×4・生徒11×3）



テーマ5
生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲

部活動と卒業後の運動やスポーツへの意欲

テーマ3では、部活動が体力・運動能力や運動・スポーツへの親しみに大きな影響を与えていることが示された。中学校において運動部に所属している生徒は、卒業後も自主的に運動やスポーツをしたいという意欲が高かった（図

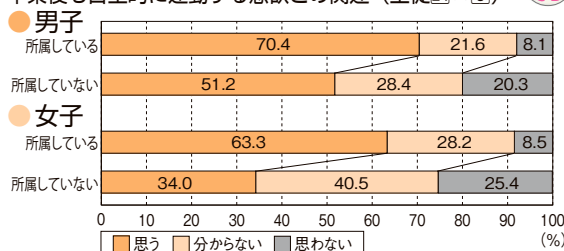
5-4）。小学校の運動部やスポーツクラブに所属している児童にも、同じ傾向がみられた。

また、文化部に参加している生徒であっても、体を動かす活動を行うことがある生徒の方が、行うことがない生徒よりも、その意欲

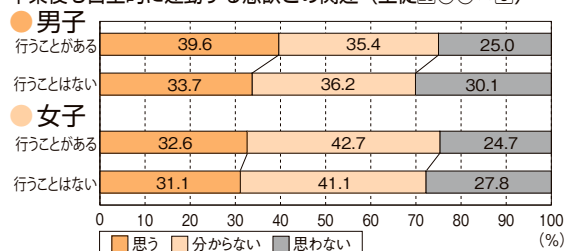
がわずかながら高かった（図5-5）。

部活動や地域のスポーツクラブが、運動やスポーツに親しみ、生涯にわたって運動する意欲を育む大切な機会の一つとなっていることがうかがえる。

【図5-4】 運動部や地域スポーツクラブへの所属と卒業後も自主的に運動する意欲との関連（生徒24×3）



【図5-5】 文化部の活動における体力づくりや運動の実施状況と卒業後も自主的に運動する意欲との関連（生徒25④⑤×3）



体力の向上と卒業後の運動やスポーツへの意欲

体育的な活動の目的の一つは児童生徒の体力の向上である。

体力総合評価別に卒業後も自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合を比較した結果、体力総合評価の高い児童生徒ではその割合が高いことがわかった(図5-6)。児童生徒ともに、男子ではD・E群が、女子ではC・D・E群が全体の値を

下回っていた。

そのため、男子においてはD・E群、女子においてはC・D・E群にそれぞれ含まれる児童生徒を減らす取組が、その後の運動やスポーツをする意欲を高めることにつながる可能性がある。

また、運動やスポーツの得意・不得意は、体力合計点と密接にかかわっている(平成21年度報告書p.31, p.79)。したがって、できなかったことができるようになるなど、児童生

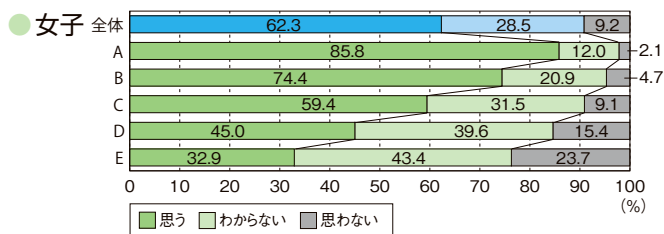
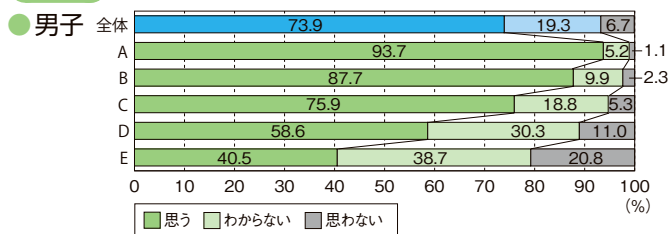
体力の向上

徒が運動やスポーツを得意と感じるようになることで、体力の向上のみならず、卒業後も運動やスポーツに親しむ児童生徒を増やすことにつながることを期待される。

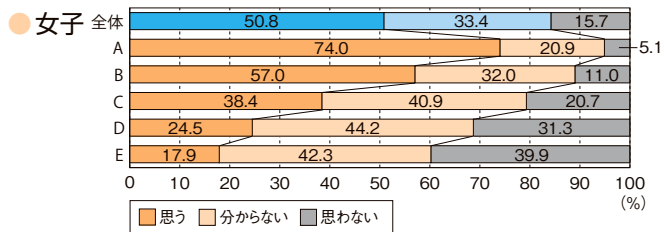
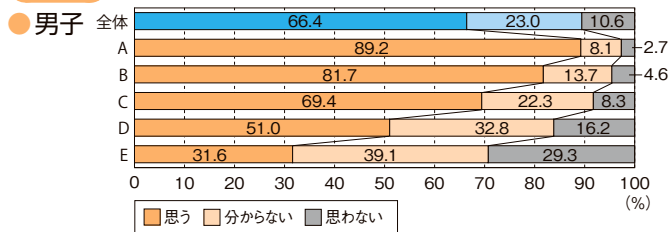
【図5-6】 体力総合評価と卒業後の運動やスポーツへの意欲との関連(児童④・生徒③)



小学校



中学校



家の人のすすめと卒業後の運動やスポーツへの意欲

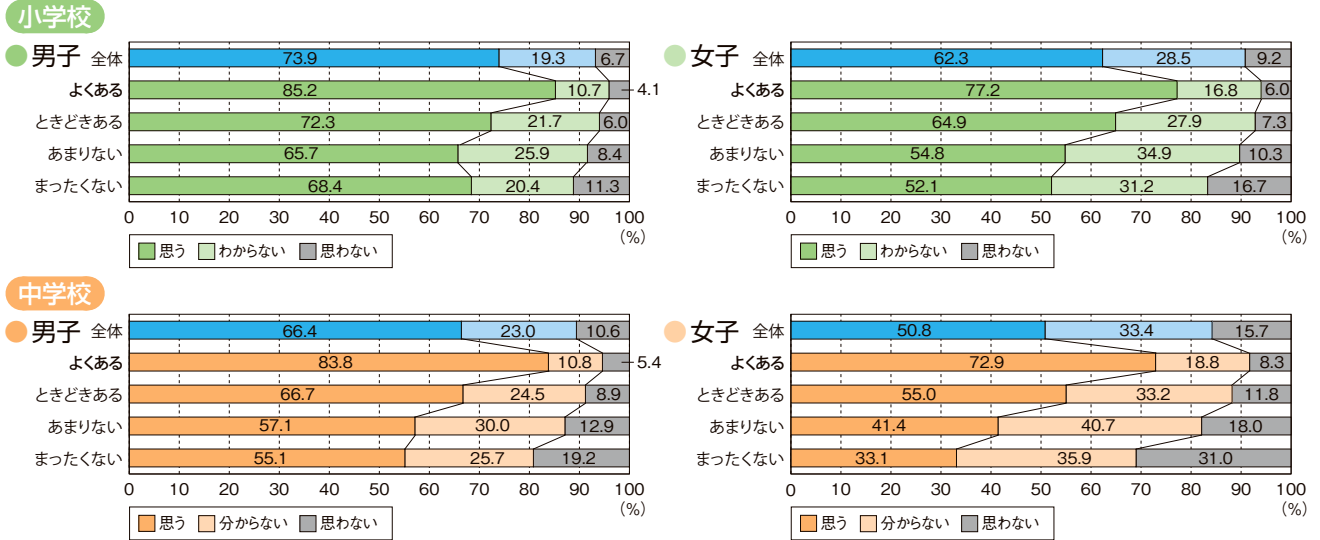
家の人が運動やスポーツを奨励することは、児童生徒の運動習慣にかかわっていることがテーマ4で示さ

家の人からの奨励

れている。そこで、「家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられることはありますか」の回答別に卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の割合を比較した結果、すすめられることが「よくある」児童生徒ほどその割合が高いことがわかった。また、小学校男子では「よくある」と回答した児童が、小学校女子、中学校男女では「よくある」と「ときどきある」

と回答した児童生徒が全体の値を上回っていた(次ページ図5-7)。したがって、家の人が頻繁に運動やスポーツをすすめることは、児童生徒のその後の運動やスポーツをする意欲を高めることにつながる可能性があり、学校だけでなく家庭との連携を行いながら児童生徒に対する運動促進の取組を実施することが望ましい。

【図5-7】 家の人からの運動やスポーツのすすめと、卒業後の運動やスポーツへの意欲との関連（児童9×4・生徒8×3）

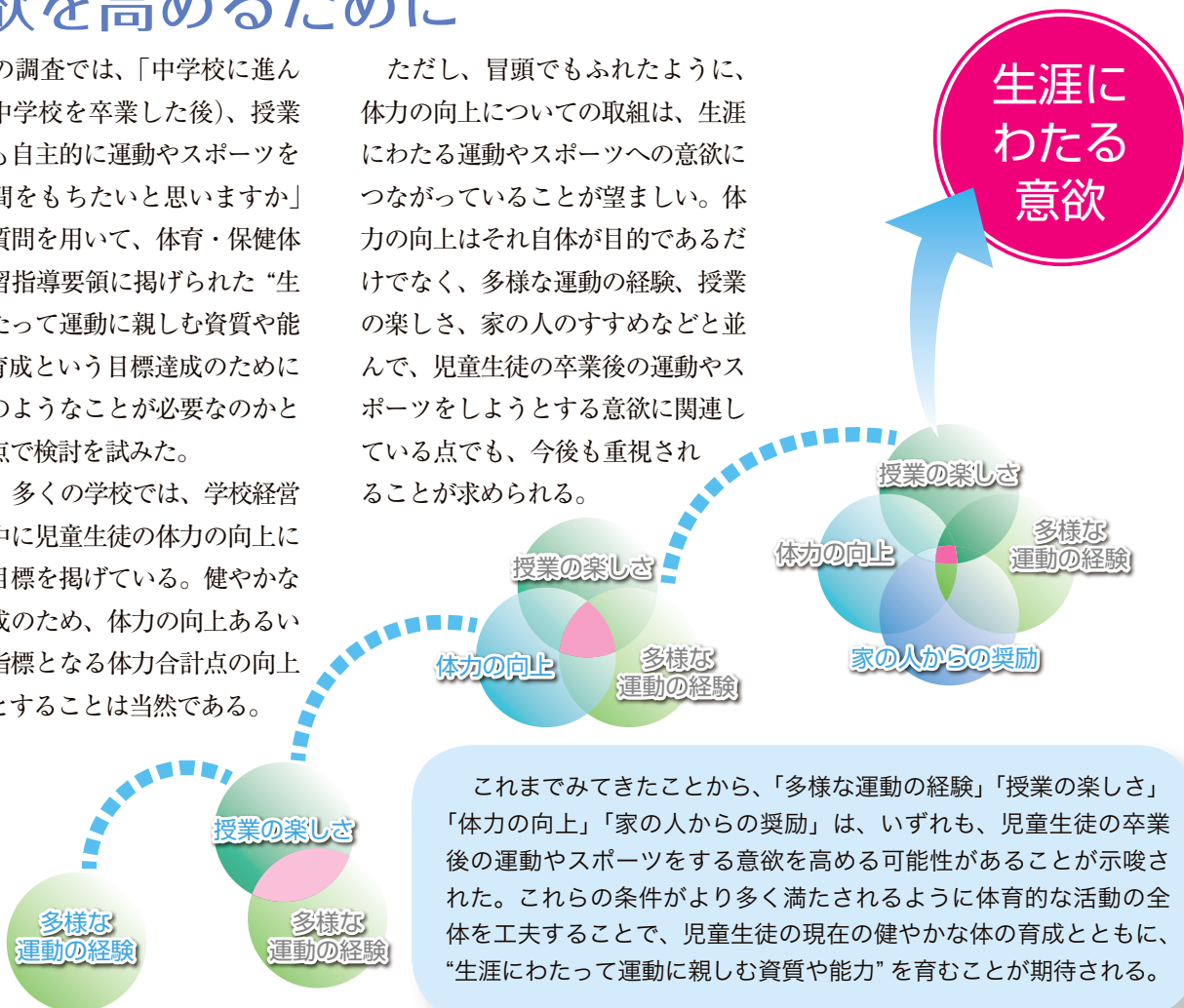


生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲を高めるために

今回の調査では、「中学校に進んだら（中学校を卒業した後）、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか」という質問を用いて、体育・保健体育の学習指導要領に掲げられた“生涯にわたって運動に親しむ資質や能力”の育成という目標達成のためには、どのようなことが必要なのかという視点で検討を試みた。

現在、多くの学校では、学校経営方針の中に児童生徒の体力の向上に関する目標を掲げている。健やかな体の育成のため、体力の向上あるいはその指標となる体力合計点の向上を目的とすることは当然である。

ただし、冒頭でもふれたように、体力の向上についての取組は、生涯にわたる運動やスポーツへの意欲につながっていることが望ましい。体力の向上はそれ自体が目的であるだけでなく、多様な運動の経験、授業の楽しさ、家の人からのすすめなどと並んで、児童生徒の卒業後の運動やスポーツをしようとする意欲に関連している点でも、今後も重視されることが求められる。



これまでみてきたことから、「多様な運動の経験」「授業の楽しさ」「体力の向上」「家の人からの奨励」は、いずれも、児童生徒の卒業後の運動やスポーツをする意欲を高める可能性があることが示唆された。これらの条件がより多く満たされるように体育的な活動の全体を工夫することで、児童生徒の現在の健やかな体の育成とともに、“生涯にわたって運動に親しむ資質や能力”を育むことが期待される。